

洪水浸水想定区域図（計画規模）

100年に1度の規模



洪水浸水想定区域等の変更について

国は、鬼怒川の堤防決壊などの水害を教訓に、今までにない想定外の河川氾濫を想定し、洪水浸水区域の見直しを行いました。天竜川上流河川事務所でも天竜川が氾濫した場合の浸水範囲や深さを示した、洪水浸水想定区域図を平成28年12月に公表された。

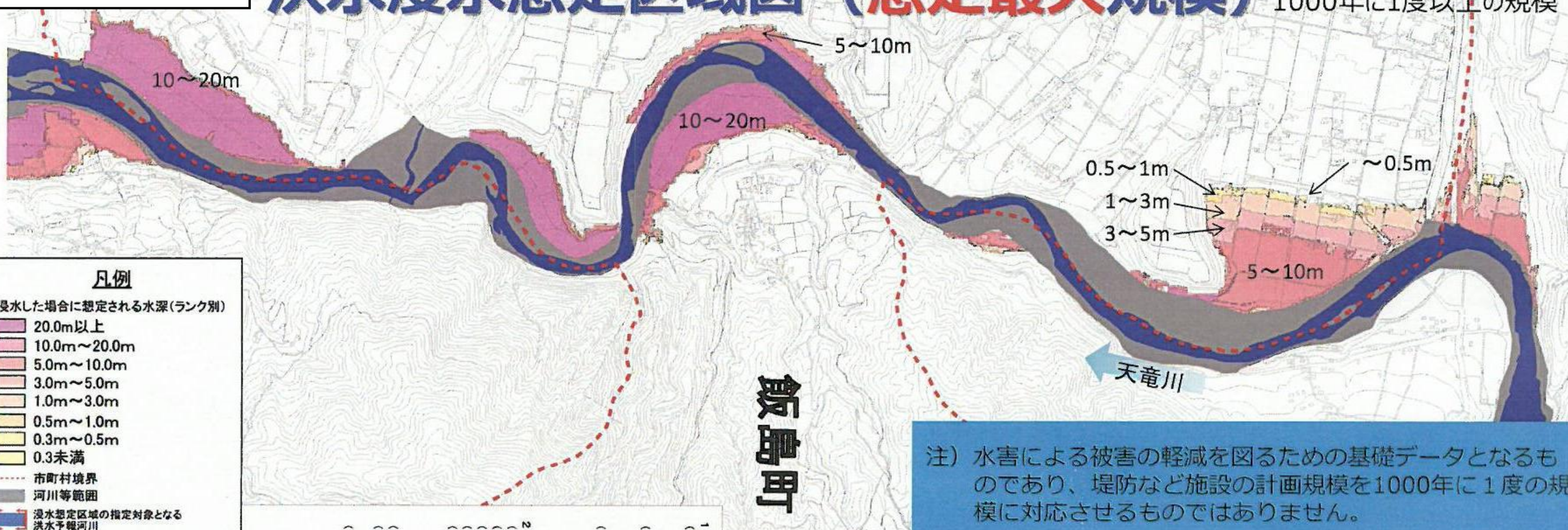
想定最大規模とは：「48時間で605ミリ」の降雨量（1000年に一度）を想定
 ○田切地区は、中平自治会一部が対象で、おもに県道竜東線を堺に東側エリアが浸水想定区域となり家屋は約10軒が浸水、深さは、0.5m～10.0mとなる想定。
 ○飯島地区は、日曾利橋下流の天竜川右岸の鳥居原自治会の一部がその対象で、3軒の民家があり深さ5m～10mの範囲で浸水する想定。
 ○本郷地区は、本三自治会の一部が対象で、飯沼橋付近を中心に堤防添いのほとんどが田んぼのエリアで10m以上の浸水想定がされている。該当民家は2軒。

流下能力向上により、H14公表よりも浸水範囲が減少

飯島町

洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

1000年に1度以上の規模



凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 20.0m以上
- 10.0m～20.0m
- 5.0m～10.0m
- 3.0m～5.0m
- 1.0m～3.0m
- 0.5m～1.0m
- 0.3m～0.5m
- 0.3未満

- 市町村境界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定対象となる洪水予報河川

飯島町

注) 水害による被害の軽減を図るための基礎データとなるものであり、堤防など施設の計画規模を1000年に1度の規模に対応させるものではありません。